The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	巻頭言 : 看護職のワーク・ライフ・バランス : 魅力的な職場づくり
Author(s)	越村, 利恵
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2012, 18(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56851
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

-巻頭言-

看護職のワーク・ライフ・バランス—魅力的な職場づくり
Work-Life Balance Among Nursing Personnel -Creating an Attractive Workplace

少子高齢化、疾病構造・国民の意識の変化、医療技術の進歩など医療をめぐる環境は急激に変化し、看護職に期待される役割と責務は高まっています。そのような中、「看護の質と安全を確保」するためには、高度な知識・技術を持った看護職員の定着が重要だと考えます。そこでこの巻頭言では、看護職員の定着を促進するための「看護職のワーク・ライフ・バランス—魅力的な職場づくり」について述べたいと思います。

ワーク・ライフ・バランスは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」でも示されている通り看護職に限ったものではなく、日本社会全体の課題でもあります。憲章では、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」を目指しています。しかし、職場や家庭、地域では、男女の固定的な役割分担意識が残っており、女性の社会進出が進んだ今でも、子育て支援などの社会的基盤は必ずしも整ってはいません。特に看護職は、男性看護職が増加したとはいえ、まだまだ女性が圧倒的に多い職場です。看護職の離職理由は「多忙な業務」「結婚」「妊娠・出産」「子育て」などが上位を占めており、いかに仕事とプライベートの両立が難しいかがわかります。日本看護協会でも、看護職のワーク・ライフ・バランス推進事業として、「働き続けられる職場づくり」を支援し、「多様な勤務形態」の普及を進めています。

大阪大学医学部附属病院看護部でも、「働き続けられる魅力的な職場づくり」について検討してきました。平成19年に7対1看護加算取得を機に病棟の夜勤者3人以上の体制が実現し、希望の多かった二交代制勤務を導入しました。同じ病棟の中で二交代制勤務、三交代制勤務を混在させ、自分の生活にあった勤務体制を選択できるようにしました。また介護や学習などプライベートな時間の確保のために、体調管理を厳重にして、専ら夜勤だけをする勤務体制を導入しました。

一人ひとりの生活に合わせて、働く時間の長さや、時間帯を選ぶことができる柔軟な勤務体制が実現すれば、仕事でもプライベートでも充実した時間をもつことができ、多くの看護職がモティベーション高く、長く働くことができるでしょう。新たな勤務形態の導入だけでなく、魅力的な職場には看護職としてキャリアアップできる体制の整備や、高度看護実践を展開する専門看護師や認定看護師の育成と活用なども必要と思います。

「どのような職場が魅力的か」を常に追求しながら、ワーク・ライフ・バランスを意識して、ハード面、ソフト面ともに職場環境の改革ができれば、高度な知識・技術を持った看護職員の定着につながるものと考えます。

最後に、大阪大学医学部附属病院では、「看護の質の向上と業務改善につながる看護研究の推進」を基本方針の一つに挙げていますが、看護職として一人前になるころから研究的視点を大事にした研修を実施し、臨床に根差した看護研究を薦めています。研究には時間的な制約が多くありますが、研究成果を実践に生かす喜びを感じられる職場環境になれば、また一つ魅力的な職場につながるのではないでしょうか。大阪大学看護学雑誌がそのような研究成果の宝庫となるよう期待しています。

大阪大学医学部附属病院看護部
看護部長　越村利恵